

第 104 回取締役会の内容について

IGRいわて銀河鉄道株式会社(代表取締役社長 浅沼康揮)では、「第 104 回取締役会」を開催しました。主な内容は、以下のとおりです。

- 【資料 1】 2022 年度決算概要について p. 1~13
- 【資料 2】 2022 年度の輸送概況について p. 14
- 【資料 3】 沿線関連等の取組について p. 15~16
- 【資料 4】 代表取締役社長の交代について p. 17

※お問い合わせにつきましては、本日 18 時 30 分まで受け付けますので、下記担当までご連絡ください。

2022年度決算について

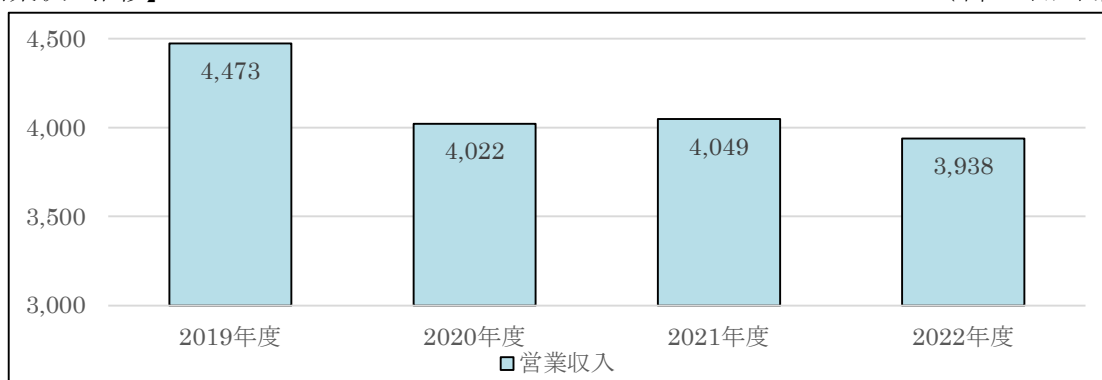
■営業収入

2022年度決算は「39億3,859万円」
2021年度決算より「1億1,106万円」の減収

旅客運輸収入の増 7,323万円
線路使用料収入の減 ▲5,045万円
運輸雑収入等の減 ▲1億3,384万円

【営業収入推移】

(単位：百万円)



■当期損益

2022年度決算は「7,100万円」の赤字
2021年度決算より「2億1,257万円」の増益

あさぬま やすき
～代表取締役社長 浅沼 康揮 コメント～

2022年度決算は、旅行需要の回復や利用促進等の取組により、旅客運輸収入が2021年度比7,323万円の増収となり、回復の兆しを見せております。また、関連事業の見直しなどコスト削減の取組のほか、岩手県及び沿線市町から「いわて銀河鉄道運行支援交付金」をいただき、経常損益が黒字となった一方で、昨年8月に発生した大雨災害による災害損失の計上により当期損益は7,100万円の赤字となりました。

2023年度も引き続き安全安定輸送の確保を第一に、収支改善に向けてより一層取り組むとともに、鉄道の利用促進とサービス向上に向けて取り組んでまいります。

2022年度決算

【総括】

営業損益は、旅行需要の回復や利用促進の取組により、旅客運輸収入が増加（73,234千円）したことに加え、修繕経費や内部管理費の削減、関連事業の見直しなどのコスト削減の取組を進めたことにより、前年度よりも111,429千円改善したものの、コロナ禍の影響やエネルギー価格の上昇による物価の高騰などにより410,139千円の赤字となりました。

経常損益は、県・沿線市町による運行支援交付金（390,000千円）を営業外収益に計上したことなどにより、前年度の340,576千円の赤字から6,242千円の黒字となりました。

当期損益は、固定資産の売却益や昨年8月に発生した大雨災害による補助金収入等（107,713千円）を特別利益に計上した一方で、災害損失（281,927千円）を特別損失に計上した結果、前年度（283,586千円の赤字）よりも大幅に収支が改善したものの、71,007千円の赤字となりました。

(単位：千円、税抜)

項目	2022年度 決算 A	2021年度 決算 B	増減 C (A-B)	Cの主な増減要因
営業収入	3,938,591	4,049,655	▲ 111,064	
旅客運輸収入	972,777	899,543	73,234	定期外運賃収入の増加
線路使用料収入	2,617,489	2,667,945	▲ 50,456	営業費に連動して減少
運輸雑収 関連事業収入 商品売上	348,323	482,166	▲ 133,843	小売業のフランチャイズ契約終了等による商品売上等の減少
営業費	4,348,730	4,571,223	▲ 222,493	
人件費	1,098,911	1,111,092	▲ 12,181	小売業のフランチャイズ契約終了等による減少
業務費	820,975	903,207	▲ 82,232	小売業のフランチャイズ契約終了等による商品仕入等の減少 燃料高騰による電力費等の増加
修繕経費	1,933,048	2,074,303	▲ 141,255	工事計画等精査による減少
諸税	123,600	118,560	5,040	
減価償却費	372,196	364,061	8,135	
営業損益	▲ 410,139	▲ 521,568	111,429	
営業外収益	432,308	193,256	239,052	いわて銀河鉄道運行支援交付金等による増加
営業外費用	15,927	12,264	3,663	
経常損益	6,242	▲ 340,576	346,818	
特別利益	412,597	183,675	228,922	8月大雨災害による補助金収入等の増加 固定資産売却益の増加
特別損失	466,901	122,291	344,610	8月大雨災害による災害損失等の増加 小売業のフランチャイズ契約終了による解約金の計上
税引前当期損益	▲ 48,061	▲ 279,192	231,131	
法人税等	22,946	4,394	18,552	
当期損益	▲ 71,007	▲ 283,586	212,579	

※千円未満端数処理の関係で、各項目の合計と合致しない場合がある。

事業報告

〔 自 2022年 4月 1日
至 2023年 3月 31日 〕

I 会社の現況に関する事項

1. 当事業年度における事業の経過及びその成果

当期における日本経済は、消費や設備投資がコロナ禍前の水準に回復するなど社会経済活動の緩やかな持ち直しが続いている一方で、世界的なエネルギー・食料価格の高騰や金融引き締め等による景気後退懸念など、依然として厳しい状況が続いています。

岩手県内においても、原材料価格や原油などのエネルギー価格の上昇や円安傾向が続いたことなどに伴う物価の高騰の影響を大きく受けました。

当社においても、コロナ禍からの回復は見られるものの、沿線の人口減少やエネルギー価格の高騰による電力費の増高等により厳しい経営状況が続きました。

このような状況下にあっても、輸送人員は1日平均12,197人となり、年間約445万人にご利用いただき、通勤・通学・通院を中心とした沿線住民の日常生活における交通手段として、コロナ禍においても重要な役割を果たしました。

鉄道の根幹である安全対策については、実車運転訓練会をはじめ、地域住民及び関係機関の方々と連携しながら踏切脱出体験訓練会及び啓発活動の実施や、テロ対策の教養の深化と、受傷防止を目的とした訓練の実施など安全の確保に取り組むとともに、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、お客さまが安心して利用していただける環境を整備してきました。

また、当社は2022年12月1日に開業20周年を迎えました。開業20周年記念事業として「えきいる」デザインを活用した「駅名標のリニューアル」や、盛岡駅の改札内外が明るい雰囲気となるよう志向した「壁面の模様替え」、日頃から駅の美化活動に協力いただいている皆さまへの「感謝状の贈呈」などを実施しました。

利用促進については、沿線の高校生と協力してマイレール意識を育むことを目的に「鉄道利用促進ポスター」を作成したほか、御所野遺跡世界遺産登録1周年を記念して「ぎんが鉄道まつり」を一戸町で開催しました。加えて、県・沿線市町からの支援（いわて銀河鉄道利用促進協議会事業）を受け、沿線市町の魅力発信を目的に実施した「キャラクター列車」や列車内をプラネタリウムのように演出した「ぎんが列車～星空号～」などの企画列車を運行しました。併せて、「小学生100円きっぷ」や「シニア往復半額きっぷ」を発売するとともに、北いわてMa a Sでの購入を対象に「IGRホリデーフリーきっぷの半額キャンペーン」を実施するなど、鉄道利用者の増加に向けた取組を行いました。

このほか、列車の遅れや運休列車を確認することができる「リアルタイム運行情報システム」の運

用を開始し、利便性の向上を図りました。

関連事業については、コロナ禍において事業全般の在り方の抜本的な見直しを実施し、小売業の撤退や飲食店の閉店などによる収支改善に向けて取り組みました。

財務運営については、徹底したコスト削減を進めるとともに、「指令システム」などの老朽化した鉄道施設の更新に鉄道施設総合安全対策事業費補助を活用するなど財務運営の安定化に取り組みました。

さらに、県・沿線市町から「いわて銀河鉄道運行支援交付金」などの支援を受けたほか、「並行在来線鉄道事業者協議会」を通じ、国に貨物調整金制度の見直しや支援制度の拡充に関する要望を継続して行うなど、事業基盤の充実に向けて取り組みました。

一方で、8月に発生した大雨災害では、5日間にわたり一部区間が不通になるなど大きな影響を受けました。この災害において、管内で道床の流出などが複数発生したことにより、復旧費用として285,904千円を要する見込みとなっています。

この結果、当期純損失として71,007千円を計上しました。内訳については、営業収益は旅客運輸収入が972,777千円、鉄道線路使用料収入が2,617,489千円、関連事業を含めた運輸雑収が348,323千円、計3,938,591千円となりました。一方、営業費は、4,348,730千円となり、営業損失は410,139千円を計上することとなりました。

これに営業外収益432,308千円、支払利息等の営業外費用15,927千円、補助金収入等の特別利益412,597千円、災害損失金等の特別損失466,901千円を加え、当期純損失は71,007千円となりました。

なお、関連事業の収支については、収入合計が194,622千円、費用合計が207,184千円となり、12,562千円の営業損失となりました。

2. 対処すべき課題

地域の旅客輸送及び日本の物流の担い手として、安全・安定輸送の確保に努めるとともに、今後の需要の変化を的確に捉えながら、事業の選択と集中を徹底し、持続的な経営基盤の構築を図ります。

財務運営については、沿線の人口減少などにより営業収益の減少は今後も見込まれます。また、物価高騰に伴う資材価格の上昇に加え、鉄道施設の老朽化に伴う修繕や、指令システムの更新など複数年計画の大規模な施設・設備の更新が予定されていることから、設備更新等の工事費の増嵩が見込まれます。これらの諸課題について、国庫補助金や助成金などの活用のほか、県・沿線市町からの支援を受けながら安定的な財務運営をめざします。

また、業務運営全般については、2023年度から新たに始まる「経営ビジョン2023～2032」及び「中期経営計画（前期：2023～2027）」のほか、別添「2023年度運営方針」に基づき、「もっと身近にIGR」を合言葉に関係機関や沿線地域の皆さまと連携・協働しながら、地域課題の解決や地域の活性化に貢献するとともに、鉄道の利用促進に取り組みます。

別紙

2023年度の運営方針

2023年度においても、新型コロナウイルス感染症によるリモートワークの定着などの行動変容や、資源・エネルギー価格の上昇、老朽化した施設・設備の取替などにより、引き続き、厳しい経営状況が続くものと見込まれます。

一方、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が、本年5月から季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行したことに伴い、社会経済活動の正常化に向けた動きが進み、鉄道利用の需要回復も期待されるところです。

こうした状況の中、2023年度は、『経営ビジョン（2023～2032）』及び『中期経営計画（前期：2023～2027）』の初年度として、これらの計画に基づく単年度の行動計画である『アクションプラン2023』に掲げる取組を着実に進めてまいります。

今後も引き続き、安全・安定輸送の確保を図りつつ、持続的な経営が可能となるよう経営改善を強力に進めるとともに、地域に根差した鉄道会社として地域課題の解決や地域の活性化に貢献しながら、地域の未来と持続可能な発展に必要な鉄道となることをめざしてまいります。

① 安全・安定輸送の確保

運輸安全マネジメントやリスクマネジメントの強化を図るとともに、警察や消防、地域の皆さま等と連携しながら、各種訓練や安全啓発活動を実施し、異常時における対応力・即応力の強化や安全意識の向上を図ります。

設備投資計画に基づき計画的かつ効率的な設備投資を進めるとともに、工法の見直しや、レール・マクラギなどの鉄道施設の長寿命化により、工事費や維持管理費の低減を図ります。

② 利用促進の強化

リアルタイムで列車の運行情報を発信することにより、お客様の利便性の向上を図るとともに、運休・遅れ等が発生した際に迅速かつ正確性の高い情報提供ができるよう、異常時対応の体制を見直します。

③ 地域との協働とにぎわいの創出

地域の関係機関と連携・協働し、沿線への着地型ツアーを実施するほか、各種イベント等への参画や沿線の魅力ある情報の発信を行うことにより、マイレール意識を醸成し、地域のにぎわいを創出します。

④ 収支改善に向けた取組の強化

組織体制や業務のスリム化を図り、効率的な業務執行体制を構築します。

収支の改善が見込めない関連事業について、廃止・縮小することにより、コストの削減及び生産性の向上を図り、事業の収益性を高めていきます。

3. 設備投資の状況

当期に実施した設備投資の総額は579,967千円で、その主な内容は次のとおりです。

・運行管理システム更新工事	206,141	千円
・ぎんが指令外5箇所遠制装置取替その他	174,690	千円
・光ケーブル及び光搬送装置新設工事	59,460	千円
・支持物取替その他工事	44,576	千円

4. 資金調達の状況

地元3行(株岩手銀行、株東北銀行、株北日本銀行)と総額15億円の限度枠内で随時必要額の融資が受けられる契約を締結しており、12億円の短期資金を借入調達しています。

また、地元3行からは、コロナウイルス感染症の長期化による売上低迷と収益性悪化が続いていることに加え、老朽化施設の修繕費や大規模設備の更新費等も増嵩していることから、設備投資を目的とする長期資金3億円を借入調達しています。

5. 直前三事業年度の財産及び損益の状況

区 分	第19期	第20期	第21期	第22期 (当事業年度)
営業収益(千円)	4,473,819	4,022,072	4,049,655	3,938,591
当期純損失(千円)	52,493	274,656	283,586	71,007
一株当たり当期純損失(円)	1,418	7,424	7,665	1,919
総資産(千円)	5,834,475	6,349,010	6,298,223	6,529,241

6. 当事業年度の末日における主要な事業内容

鉄道事業法による第一種鉄道事業及びこれに付帯関連する事業

7. 当事業年度の末日における主要な事業所

- ・本 社 岩手県盛岡市青山二丁目2番8号
- ・運輸管理所 岩手県盛岡市天昌寺町5番5号
- ・設備管理所 岩手県盛岡市好摩字上山3番地3

8. 使用人の状況

区分	使用人数	平均年齢	平均勤続年数
男子	203 名	45.1 歳	9.6 年
女子	69 名	38.7 歳	7.8 年
合計	272 名	43.5 歳	9.1 年

(注) 上記には、東日本旅客鉄道株からの出向従業員 21 名、岩手県からの出向従業員 1 名、契約社員 1 名、スタッフ社員 59 名を含んでいます。

9. 重要な親会社等の状況

当社は、岩手県から発行済株式総数の 54.06% (20,000 株) の出資を受けています。

当社は、岩手県知事が取締役会長に就任しています。

II 株式に関する事項

1. 会社が発行する株式の総数 40,000 株
2. 発行済株式の総数 (普通株式) 36,994 株
3. 当事業年度末の株主数 49 名
4. 発行済株式の十分の一以上の数の株式を有する大株主の状況

株主名	持株数
岩手県	20,000 株
盛岡市	5,858 株

Ⅲ 会社役員に関する事項

1. 取締役及び監査役の状況

会社における地位	氏 名	担当又は他の法人等の代表状況等
取締役 会長	達 増 拓 也	岩手県知事
取締役 副会長	谷 藤 裕 明	盛岡市長
代表取締役 社長	浅 沼 康 揮	
専務取締役	鈴 木 敦	
取締役	藤 原 淳	二戸市長
取締役	佐々木 光 司	岩手町長
取締役	熊 谷 泰 樹	岩手県ふるさと振興部長
取締役	小野寺 美 登	一戸町長
取締役	武 田 哲	滝沢市長
常勤監査役	似 鳥 徹	岩手県立大学名誉教授
監査役	鎌 田 英 樹	株式会社ア化 ^{アール} 岩手放送代表取締役会長
監査役	佐々木 孝 弘	八幡平市長

(注)取締役 中村英夫は2022年6月17日に辞任しました。

(注)取締役 主濱了は2022年11月19日に辞任しました。

2. 取締役及び監査役の報酬等の総額

(単位：千円)

区 分	人 数	報 酬 等 の 額	摘 要
取 締 役	3	12,194	
監 査 役	2	2,304	
計	5	14,498	

IV 会計監査人に関する事項

1. 名称

有限責任 あずさ監査法人

2. 当事業年度中に辞任した又は解任された会計監査人に関する事項

該当する事項はありません。

3. 現在の業務停止処分に関する事項

該当する事項はありません。

4. 過去2年間の業務停止処分に関する事項の内、会社が事業報告の内容とすべきと判断した事項

該当する事項はありません。

V 業務の適正を確保するための体制等の整備についての決議内容

内部統制システムの整備に関する基本方針について

当社の内部統制システムの整備に関する基本方針を以下のとおり定めています。

1 取締役の職務執行が法令・定款に適合することを確保するための体制

役職員はあらゆる会社の根本規範である定款及び法令に従ってその職務を遂行するとともに取締役自ら率先垂範と役職員への周知徹底を図ることとする。また、監査役は取締役会等の重要な会議に出席し、取締役の職務執行の監視をより一層強化することとする。

2 取締役の職務の執行が効率的に行われていることを確保するための体制

取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するため、定期的に取り締役会を招集するほか、適宜臨時に開催するものとする。併せて、年次事業計画を立案し、全社的な目標を設定するものとする。

3 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

全社的対応は総務部を窓口とし、リスクの状況を正確に把握、適切に制御の上、健全な会社経営に努めるものとする。なお、不測の事態が発生した場合には、社長指揮下の対策本部を設置し、迅速な対応を行い、損害の拡大を防止する体制を整えるものとする。

4 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する事項

取締役の職務執行に係る情報については、適切かつ確実に定められた期間、保存・管理を行うものとする。

5 取締役が監査役に報告をするための体制

取締役は、会社の業務または業績に与える重要な事項について監査役に報告するものとし、職務の執行に関する法令違反、定款違反及び不正行為の事実を知った時は、遅滞なく報告するものとする。なお、前記に関わらず、監査役は必要に応じて、取締役に対し報告を求めることができるものとする。

VI 決算期後に生じた会社の状況に関する重要な事実

該当する事項はありません。

アクションプラン 2022 総括

1. 概要

2022年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により減収が続いていた旅客運輸収入も回復の兆しが見られた一方で、昨年8月に発生した大雨災害により一部区間が不通になるなど大きな影響を受けたほか、電気料金をはじめとした物価高騰もあり厳しい経営状況が続きました。

このような状況の中、当社は12月1日に開業20周年の節目の年を迎えました。単年度の行動計画である『アクションプラン2022』に掲げる取組を着実に進め、当社の使命である安全安定輸送の確保を図りながら、沿線地域の皆様と連携し鉄道の利用促進や地域活性化に取り組みました。

2. 2022年度の主な取組内容

I 「安全・安心」を第一に、地域の旅客輸送・日本の物流の担い手として、より信頼される鉄道であり続けます。

- ① 関係機関と連携して踏切事故防止運動や地域に啓発活動を行うとともに、実車運転訓練会等を実施するなど、異常時における対応力の強化を図りました。
- ② 計画的かつ効率的な設備投資を進めるとともに、工法の見直しや鉄道施設の長寿命化により、工事費や維持管理費の低減を図りました。
- ③ 昨年8月に発生した大雨災害による復旧工事を迅速に進めるとともに、今後の自然災害に強い設備の整備を行いました。
- ④ 技術勉強会や安全報告会などを計画的に実施し、災害発生時など迅速かつ的確な対応が出来るよう技術力・安全意識の継承を進めました。



踏切事故防止運動
(境田川原踏切)



実車運転訓練会
(故障車両救援時の様子)



大雨災害の状況
(左 路盤流出・道床流出 / 右 小鳥谷のり面流出)

II 誰もが利用したくなるようなお客さまにやさしい魅力的な鉄道をめざします。

- ① スマホやタブレット等から列車の所在地や遅れ、運休情報を確認できる「リアルタイム運行情報サービス」を開始しました。
- ② デジタルチケットの「北いわてMaaS」限定で「IGRホリデーフリーきっぷ」半額キャンペーンを実施しました。
- ③ いわて銀河鉄道利用促進協議会から御支援をいただき、列車内に星空のライトアップを施した「ぎんが列車～星空号～」や、列車内をバレンタインイルミネーションで装飾した「ぎんが列車～バレンタイン号～」、IGR沿線市町のキャラクターが定期列車に乗車する「キャラクター列車」、沿線市町のスイーツを使用した日帰り企画ツアー「IGRぎんがスイーツ列車」などを運行しました。
- ④ IGR線内を片道100円で利用できる「小学生100円きっぷ」や、70歳以上を対象にIGR線全区間の往復が通常運賃の約半額になる「シニア往復半額きっぷ」を発売しました。
- ⑤ 三陸鉄道、JR東日本盛岡支社、日本航空岩手営業所、岩手県北広域振興局及び岩手町にご協力いただき、三陸鉄道の車両がIGR線を走行する企画ツアー「さんてつ銀河の星めぐり2023」を実施しました。
- ⑥ 利用実態を踏まえダイヤ改正を行い、ご利用の多い盛岡～滝沢間を4本増発するとともに、JR東北本線との直通列車を5本から9本に増やすなど、利便性の向上を図りました。



リアルタイム運行情報サービス



北いわてMaaS
(IGRホリデーフリーきっぷ)



ぎんが列車～星空号～



さんてつ銀河の星めぐり2023



小学生100円きっぷ



シニア往復半額きっぷ

Ⅲ 地域のかげがえのない足として将来にわたり健全で安定的な経営に努めます。

- ① 組織体制の見直しや業務の効率化を実施するとともに、収益の改善が見込めない関連事業を廃止・縮小することにより、収支改善及び生産性の向上を図りました。
- ② ダイヤ改正に合わせて駅の営業体制について見直しを行い、経費の圧縮を図りました。
- ③ 未利用地や未利用スペースの有効活用に取り組み、収益の増加を図りました。
- ④ 今後の持続的な運行に向けた経営のあり方について、県・沿線市町と検討を行い、2023年度から5年間にわたり、施設維持に係る経費に対し、3億円/年度のご支援をいただきながら、経営基盤の再構築を図っていくこととなりました。
- ⑤ 10年後のめざすべき未来像である「経営ビジョン（2023～2032）」と、経営ビジョンを達成するための具体的な取組内容を定めた「中期経営計画（2023～2027）」を策定しました。
- ⑥ 開業20周年事業として、「ぎんがくん・きらりちゃん 一日盛岡駅長任命式」を行ったほか、駅名標を沿線の名所・名物をモチーフとした「えきいろ」デザインにリニューアルしました。



あおやまフリマ



経営ビジョン・中期経営計画



開業20周年記念事業

(左 一日駅長任命式 / 右 一日駅長による列車のお見送り)



駅名標リニューアル

(左 リニューアル前 / 右 リニューアル後)

2022年度の輸送概況

◇ 輸送人員

【単位:人/日】

	2022年度	2021年度	増減	対比	2018年度	増減	対比
定期	9,628	9,638	△ 9	100%	10,616	△ 988	91%
通勤	3,863	3,914	△ 51	99%	4,299	△ 436	90%
通学	5,765	5,723	42	101%	6,318	△ 552	91%
定期外	2,569	2,227	341	115%	3,766	△ 1,198	68%
合計	12,197	11,865	332	103%	14,383	△ 2,186	85%

◇ 旅客運輸収入

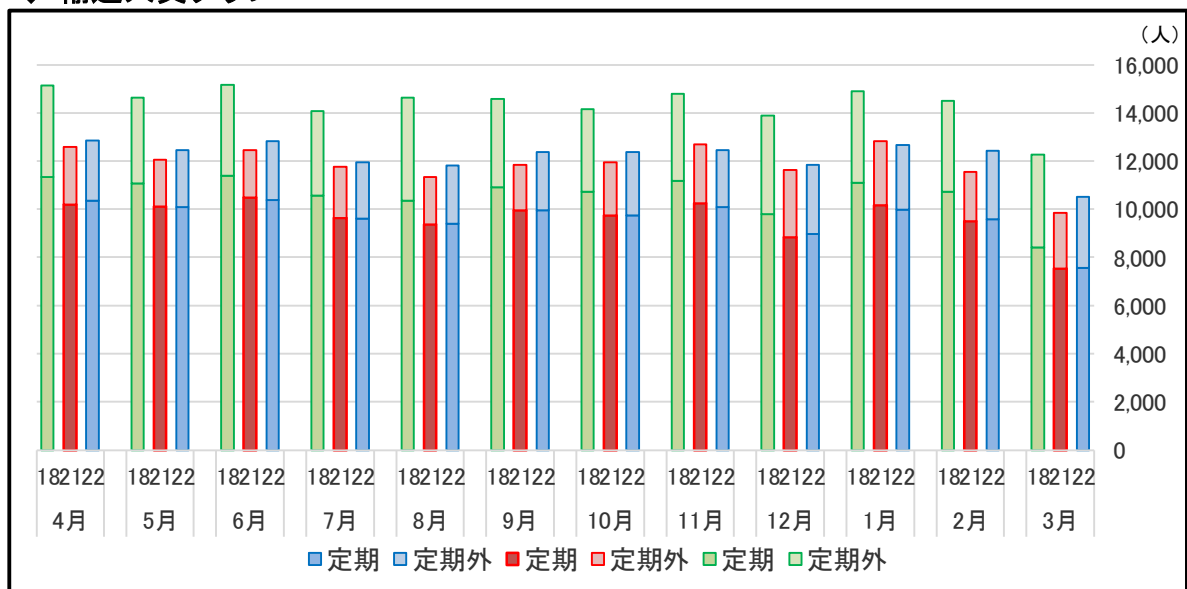
【単位:百万円】

	2022年度	2021年度	増減	対比	2018年度	増減	対比
定期	509	525	△ 16	97%	583	△ 73	87%
通勤	261	272	△ 11	96%	303	△ 42	86%
通学	248	252	△ 4	98%	280	△ 32	89%
定期外	463	375	88	123%	665	△ 202	70%
合計	972	900	73	108%	1,247	△ 275	78%

※ 輸送人員・収入とも項目ごとに四捨五入のため、合計しても合わない場合がある。

※ 収入は、券種毎の統計数値のため決算数値とは異なる。

◇ 輸送人員グラフ



◇ 概況(輸送人員)

【2021年度(前年)比較】

(通勤定期) 前年度と同程度で推移している。(99%)

(通学定期) 少子化による学生の減少が続く中、二戸市による通学費補助及び沿線の私立学校への通学定期利用が増えたことにより、前年度を上回っている。(101%)

(定期外) 断続的に新型コロナの感染拡大の波があったものの、様々なイベントや祭りが行動制限も無く開催されたことにより、前年度を上回っている。(115%)

【2018年度(平常時)比較】

(通勤定期) 新型コロナによる通勤方法の変更等により減少していると考えられる。(90%)

(通学定期) 少子化の影響等により減少していると考えられる。(91%)

(定期外) 依然としてコロナ禍前までの回復には至らないものの、イベントや祭り等が多く催されたことで、旅行等の人の動きが出たことにより、2021年度の平常時比較から9ポイント増加した。(68%)

沿線関連等の取組

(2023年4月～6月)

1. クリーニングロッカー設置	
	<p>■4月19日～</p> <p>青山駅青山南口にスマホで受け渡しが完結するクリーニングロッカー「LAGOO」を設置しました。AiCT社が開発したシステムで、青山駅はホワイト急便イワテが設置しました。東北の駅では初めての設置です。</p>
2. 中学校でのマナー教室	
	<p>■4月20日</p> <p>列車通学されている生徒さんが多い盛岡中央高校附属中学校にて「列車の利用方法」「踏切通行時の注意」などの講習会を開催し、約110名に受講していただきました。</p> <p>中学校でのマナー教室は初めての開催です。</p>
3. 桃鉄印・桃鉄印帳発売	
	<p>■4月22日～</p> <p>コナミデジタルエンタテインメントから発売されている人気ゲーム「桃太郎電鉄」とコラボレーションした「鉄印・鉄印帳」を青山駅で発売中です。これは第三セクター鉄道等協議会の連携事業として実施しています。</p>
4. 奥中山高原にぎわい日曜日	
	<p>■5月5日</p> <p>5月3日から10月15日まで奥中山高原温泉で「にぎわい日曜日」が開催されています。</p> <p>当社は5月5日にミニ電車を出店。賑わいに一役買いました。</p>
5. ミニこいのぼりプレゼント	
	<p>■5月5日</p> <p>恒例となった医療ラインアテンダントの発案・手作りの小さなこいのぼりを配布。</p> <p>4年ぶりに盛岡駅にて、アテンダントと社員の子供たちがお客さまにプレゼントし、改札前やホームが笑顔で包まれました。</p>

6. 春の踏切事故防止運動



■5月11日～20日

「春の全国交通安全運動」に合わせ、踏切事故防止運動を行いました。

踏切での事故防止呼びかけ、警察署への啓発活動、ポスターや垂れ幕の掲出、車内放送を実施しました。

7. プロ野球公式戦臨時列車



■5月16日、6月28日

今年完成した「きたぎんボールパーク」は岩手飯岡駅から近く、鉄道でのご来場が多く見込まれることから、5月16日の東北楽天ゴールデンイーグルス対福岡ソフトバンクホークス開催日に臨時列車を運転。6月28日の読売ジャイアンツ対東京ヤクルトスワローズ開催日にも臨時列車を運転します。

8. チャグチャグ馬コの駅展示



■5月25日～6月11日

チャグチャグ馬コPRの一環として、青山駅南口と厨川駅構内にてチャグチャグ馬コの展示を行っています。

近隣の園児の馬コぬり絵や、歴代のイベントポスター、Q&Aなどを掲出しています。

9. 歴史街道を歩く 2023 奥州街道



■5月28日から全4回

未だ当時の面影を色濃く残す奥州街道。

5月28日の小鳥谷地区を皮切りに、4回にわたり一戸町～二戸市の各地区を歩いてめぐるイベント。

例年多くの歴史ファンにご参加いただいております、待望の4年ぶりの開催となります。

10. 東北絆まつり 2023 青森



■6月17日

青森市で開催の絆まつり（6月17・18日）に合わせ、特に帰りが遅くなる17日に臨時快速を設定します。

同時に盛岡～青森間をお得に利用できる「もりもりフリーパス」（5,500円）を発売し、秋の観光シーズンの11月まで継続して発売します。

2023年6月8日
I GRいわて銀河鉄道株式会社

代表取締役社長の交代（内定）に関するお知らせ

I GRいわて銀河鉄道株式会社は、本日開催の第104回取締役会において、代表取締役社長の交代（内定）を決定しましたのでお知らせいたします。

なお、本件は2023年6月16日開催予定の第22回定時株主総会後に開催される第105回取締役会において正式に決定される予定です。

1. 代表取締役社長の交代（2023年6月16日付）

氏名	新役職	現役職
浅沼 康揮（あさぬま やすき）	退任	代表取締役社長
鈴木 敦（すずき あつし）	代表取締役社長	専務取締役

2. 新代表取締役社長（内定者）略歴



氏名

鈴木 敦（すずき あつし）

生年月日

1960年10月12日（62歳）

略歴

1983年4月 岩手県庁入庁
 2012年10月 政策地域部地域振興室 特命参事
 2015年4月 政策地域部 参事
 2016年4月 沿岸広域振興局 副局長（宮古市駐在）
 2017年4月 政策地域部 副部長
 2018年4月 理事
 2019年4月 岩手県監査委員事務局 事務局長
 2020年4月 理事
 2021年4月 当社入社 総務部長
 2021年6月 当社専務取締役（現任）